

令和3年度実施 課題解決型インターンシップ 受入先向説明会 ワークシート

当日は、本シートをプリントアウトのうえご参加ください。
「インターンシッププログラムの作り方」で使用いたします。事前に記入する必要はありません。

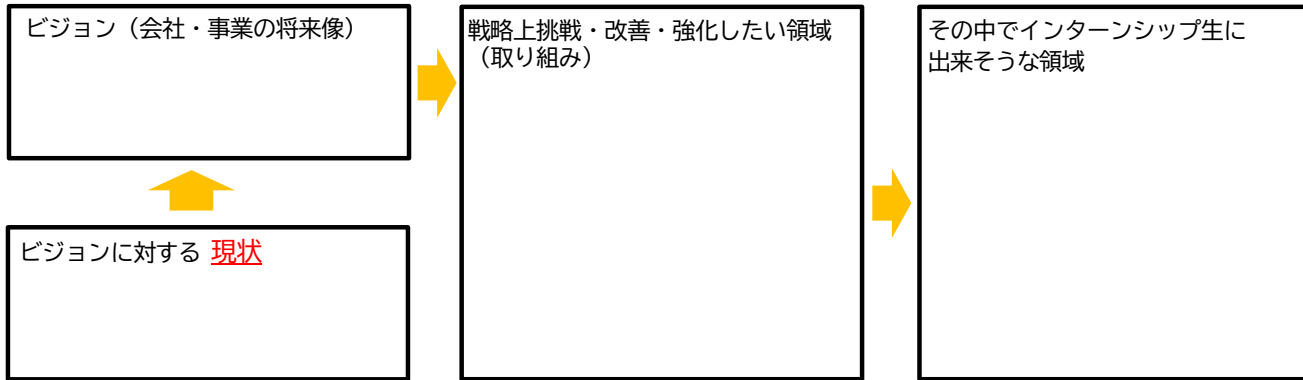
目的は？

- ①経営改善の推進
- ②人材育成力の向上
- ③人材の採用

その他の目的は？

- 社会貢献
- 社内活性化
- 会社PR
- 教育貢献
- 業務見直し
- 大学との連携

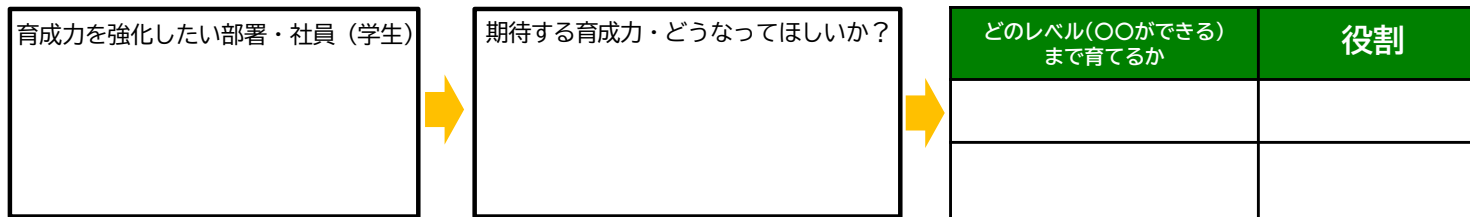
①経営改善の推進



テーマ	目標	期間

【プログラム設計チェック】

②人材育成力の向上



【テーマ設定のポイント】

～企業視点～

- 経営戦略上、必要な課題設定 (学生のためだけに用意するものではない)
- 大まかな仮説があり、仮説検証を繰り返す必要がある (検証・改善の余地がある)
- 日常的または専門的に指導できる人がいる (社外でも可)

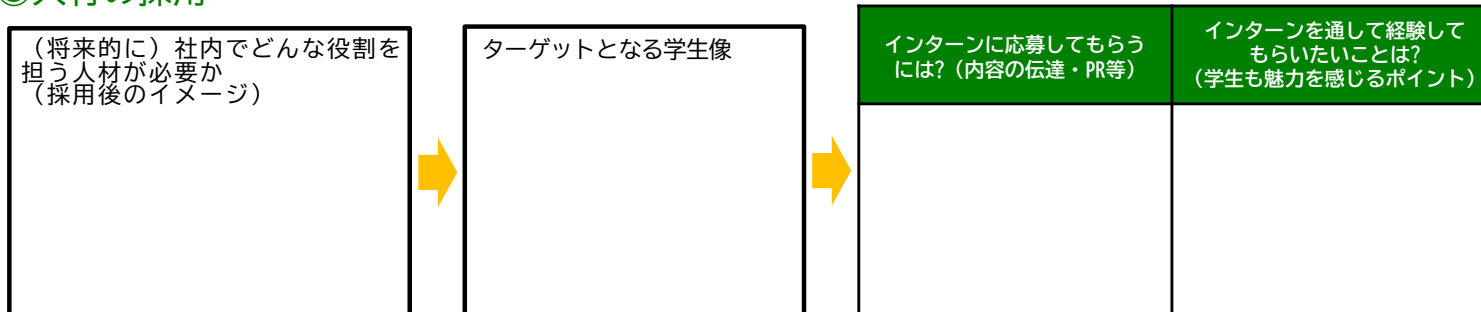
～学生視点～

- プログラムに興味のある学生がいそう
- 10日間で課題をこなせる学生がいそう

【学習効果・成長を促進するポイント】

- 仕事 (業務) の全体像や意義が理解できる
- 思考・行動に対するフィードバックが得られる
→ 日報を用いた目標設定と振り返り (PDCAを回す)
- 役割が明確 (狭く深く) で、測定可能な目標がある

③人材の採用




【課題解決プログラム】

課題名 (50文字)				
課題の背景 (200文字)				
養成される主な能力				
受入人数	人			
対象学年	<input type="checkbox"/> 全学年 <input type="checkbox"/> 学年指定あり 指定理由：			
応募要件	<input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> 指定要件あり 指定理由：			
実習計画	日目	日付	午前	午後
	1	/		
	2	/		
	3	/		
	4	/		
	5	/		
	6	/		
	7	/		
	8	/		
	9	/		
10	/			
備考				

- 主体性・・・物事に進んで取り組む力
- 働きかけ力・・・他人に働きかけ巻き込む力
- 実行力・・・目的を設定し確実に行動する力
- 課題発見力・・・現状を分析し目的や課題を明らかにする力
- 創造力・・・新しい価値を生み出す力
- 計画力・・・問題の解決に向けたプロセスを明らかにし準備する力
- 発信力・・・自分の意見をわかりやすく伝える力
- 傾聴力・・・相手の意見を丁寧に聞く力
- 柔軟性・・・意見の違いや立場の違いを理解する力
- 状況把握力・・・自分と周囲の人々や物事との関係性を理解する力
- 規律性・・・社会のルールや人との約束を守る力
- ストレスコントロール力・・・ストレスの発生源に対応する力

プロセス	目安	プログラム概要(例示)
1. オリエンテーション	1日	○受入先概要説明 ・組織の理念や現在の目標 ・組織の業務内容や特徴 ○インターンシップ課題の説明(再確認) ○実習のための注意事項の確認や基本的なマナー講習 ○社内見学(事務室、売り場、工場など)
2. 現場実習	2～5日	○就業体験(受入側の事情やインターンシップ課題等で以下のような業務が考えられます) ・業務体験(接客、生産・製造体験、営業、会議、研修参加など) ・現地調査(関係者インタビュー、定点観察、関連地域視察など)
3. 現状の理解と整理	1～2日	○学生による自己学習(受入側の参加も柔軟に考えてください) ・課題に係る現状整理(SWOT分析など) ・先進事例の収集分析・背景調査(文献、フィールドワークなど) ・ワークショップによる情報の共有
4. 課題解決案の作成	2～4日	○企画試案の作成 ・アイデア出し(ブレインストーミング・思考整理など) ・企画試案の作成(目的・コンセプト・具体的な実施案など) ○企画試案の中間発表・現場担当者による評価 ○企画案の修正→最終案作成 ○企画案に基づいた具体的実行(イベントの実施など) ○最終発表資料作成
5. 最終発表	半日 ～1日	○企画案の最終発表・評価 ○最終発表資料提出

企業または自治体名	株式会社九州タブチ	
業種	製造業	
事業概要	各家庭へ水を供給する際に欠かせない給水装置の開発・製造を行っているものづくり企業です！	

【プログラム情報】

課題名	組立工程に隠れる『3ム』を改善！ ～10日間で学ぶ働き方改革のすすめ～			
課題の説明 (100字程度)	トヨタ生産方式の改善手法にならって、組立工程に隠れる「ムリ・ムラ・ムダ」を改善し、働きやすさと生産性の向上に繋げて頂きます。その過程で、自動化・IoTの推進に向けた提案まで行って頂きます。			
対象学年	<input checked="" type="checkbox"/> 全学年・全学部 <input type="checkbox"/> 指定あり（具体的な指定：）			
応募要件	<input checked="" type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> あり（具体的な能力：）			
養成される主な能力	<input type="checkbox"/> 自己分析力 <input type="checkbox"/> 自己管理能力 <input checked="" type="checkbox"/> 情報収集力 <input checked="" type="checkbox"/> 多元的・多角的分析力 <input type="checkbox"/> 客観的判断力 <input type="checkbox"/> 企画力 <input checked="" type="checkbox"/> 実行力 <input type="checkbox"/> コミュニケーション力 <input type="checkbox"/> 対人調整力 <input checked="" type="checkbox"/> プレゼン力 <input type="checkbox"/> 職場適応力			
インターンシップの概要	日目	日程	午前	午後
	1	/	オリエンテーション・基本概要説明・工場見学	改善活動の基礎学習 発表事例鑑賞
	2	/	テーマ設定・目標設定・現状調査（必要な情報の整理・収集）	
	3	/	現状調査（課題の整理）・要因解析（原因の追及）	
	4	/	現場改善①（対策案の検討・業務改善・結果の確認）	
	5	/	現場改善②（対策案の検討・業務改善・結果の確認）	
	6	/	現場改善③（対策案の検討・業務改善・結果の確認）	
	7	/	現場改善④（対策案の検討・業務改善・結果の確認）	
	8	/	結果のまとめ・評価（成果と課題の振り返り）	
	9	/	資料作成・確認・発表練習	
10	/	事例発表・講評	10日間の振り返り	
備考	※モノづくりの経験や興味が無くても、これまで出場してきた業務改善発表大会の様子や活動のプロセスから学ぶ「問題解決思考」と「プレゼンスキル」は、今後の社会人生活において、必ず役に立つと考えています。			

お客様に満足してもらえるものづくり

～組立作業と工場における改善活動「見える化」による解決策の提案～

受入先：株式会社 九州タブチ

鹿児島大学法文学部法経社会学科 3年 M . Y

課題名：組立工程に隠れる『3ムを改善』 ～10日間で学ぶ働き方改革のすすめ～

- フラット統合ラインの作業改善
- 給設課休憩室の改善

1. フラット統合ラインの作業改善

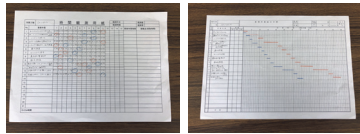
◎ 対象とした製品：水栓コンセント『フラット』



取り上げた理由：
九州タブチの主力製品であり、今後も伸び続けることが予測されている商品である。誰もがサイクリックに組み立てられることが求められているが、新入社員は組立作業を見学すると、大きなばらつきが見られたから。

◎ 現状調査

- 方法：**
1. 要素作業ごとに所要時間の計測
2. 標準作業組合せ表を作成



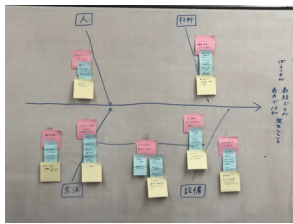
現状調査の結果：
新入社員とベテラン社員の差 最短 新入社員：40秒00 ベテラン社員：35秒00
ばらつき 5秒
最長 新入社員：70秒00 ベテラン社員：57秒00
ばらつき 13秒

◎ 目標値

新入社員、
最短の時間を**5秒**
最長の時間を**13秒** 短縮することでばらつきを改善する

◎ 要因解析

- 方法：特要因図の作成**
1. 組立作業を撮影した動画や作成した標準作業組合せ表を見て気になることを付箋に書く
2. 4M (人・材料・方法・設備)のどの項目に起因しているかを考え分類
3. なぜを5回考えることで深堀りを行う



- 特要因図の作成から分かったこと：**
ばらつきが7つの要因から起こっている
- 本人が早く作ろうとしている
 - 仕切りの準備
 - 助合検査の仕方
 - 内箱の組立方法
 - ロット印の場所
 - 印鑑
 - ラベルの貼り方

◎ 対策・処置

- 本人が早く作ろうとしている
→ 慣れていないから
→ 始めたばかりだから
正しい姿勢で一装着を徹底することを意識してもらう
- 内箱の組立方法
→ 手順が1つ多い
→ 知らなかったのではないかと教える側の教え方の違い
→ 最短できる方法が共有されていない
カン・コツ教育の徹底
- ラベルの貼り方
→ ラベルを片手で貼るときにラベルが落下
→ 片手でラベルを取るのに不向きな器具を使っている
器具の統一化
- 印鑑
→ フタの取り外しに手間が発生している
→ 使っている印鑑がフタ付きであるから
→ 他の方が使っているような印鑑を持っていない
フタを外した状態で組立を行う

◎ 結果の確認

最短 40秒00 → 34秒50 **マイナス 5秒5**
最長 70秒00 → 68秒50 **マイナス 1秒5**
ばらつき 30秒 → 34秒 **プラス 4秒**
改善を行った項目の所要時間：
印鑑 (平均) 3秒03 → 2秒90 **マイナス 0秒13**
内箱の組立・ラベル貼り (平均) 5秒73 → 4秒56 **マイナス 1秒17**

◎ 評価

最短のタイムや最長のタイムといったサイクルタイムを短縮することができたので、改善活動がサイクルタイムに対して効果があったと言えるのではないだろうか。

しかし、ばらつきについては拡大してしまったので、今後の改善活動の課題として引き継ぎたい。

◎ 今後の課題

- ハンドルやロット印の吊るしてある位置が高いのではないかと
→ 手の上下動が少ない作業台への改善
- 仕切りを準備する手間の発生 (20枚1セットになっているため1ケース25個分作る際に次のケースから足りない分を補充している)
→ あらかじめ仕切りを25枚ずつ用意する
→ 内箱のように作業台の外側から補充できるように作業箱を作りを変える



まとめ

今回のインターンシップでは、製造業におけるトヨタ生産方式にならった改善活動を実際に体験し理解することができた。改善活動を通して、なんらかの作業を改善する際の方法や着眼点を学んだことで、今後、就職した後の活動に生かすことができるだけでなく、現在においてもアルバイトで働いているときの自分の作業の改善を意識することができるようになり、自己意識の変化に繋げることができたのではないと思う。

1日目	8/24	オリエンテーション・工場見学・改善活動の基礎学習	6日目	9/1	現場改善③ (休憩室の改善作業)
2日目	8/25	テーマ設定・目標設定・現状調査	7日目	9/2	現場改善④ (アンケート実施・休憩室の改善作業)
3日目	8/26	現状調査	8日目	9/3	結果のまとめ・評価・資料作成
4日目	8/27	現場改善① (アンケート実施・組立作業見学・要因解析)	9日目	9/4	資料作成・発表・講評
5日目	8/28	現場改善② (要因解析・改善策提案)			

2. 給設課休憩室の改善

◎ 取り上げた理由

「見える工場」という視点で工場の改善を考えたときに、6Sの評価指標に注目した。6Sバトロールの結果を見ると評価項目の中に休憩室の項目があり、自分自身の経験が生かせるのではないかと考えたから。

給設課の休憩室は工場見学の最後の場所であるが、殺風景である。組立を行う社員の皆さんは作業中は集中しているため、1人1人の人柄が伝わりづらく冷たい印象を受ける。作業現場では伝わらないような社員の皆さんや九州タブチの魅力を生かしたいと思ったから。

◎ 現状調査

方法： Googleフォームを用いたアンケート調査

質問内容：

- 現在の休憩室はお客様にとって清潔感のある場所であると思うか。
- 工場見学の際、最後にお客様が通る場所が給設課休憩室ですが、外部の方々にとって良い印象を与えるような場所になっていると思うか。

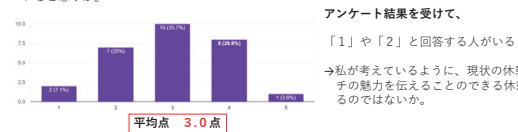
《アンケート調査の結果》

- 現在の休憩室はお客様にとって清潔感のある場所であると思うか。



→ 10日間という時間的制約や、資金面での理由により今回の改善活動では割愛

- 工場見学の際、最後にお客様が通る場所が給設課休憩室ですが、外部の方々にとって良い印象を与えるような場所になっていると思うか。



◎ 目標値

質問2の回答において、「4」や「5」と回答する人を増やし、

平均点を 3点 → **4点 1点アップ**

◎ 要因解析/対策・処置

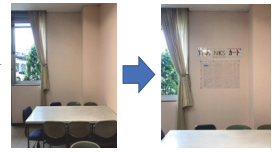
アンケート調査の質問2で「1」や「2」と回答した人が多かったのはなぜか
→ 休憩室に緑が少ない
→ イスやテーブルに統一感がない
→ 写真等の掲示物が少ない

これに対して私ができることは何か
→ Thanksカードの掲示
→ 社内報の掲示
→ 写真の掲示

《Thanksカードの掲示》



- ウォールポケットの設置
 - 新ルールの導入
- 給設課内でのやり取りする場合**
① カードを書いたら、カードを書いた人が直接送る相手に渡す
② カードを買った人はウォールポケットに入れる
③ 毎月1日にカードを担当の人が回収される
- 給設課以外の人とやり取りする場合**
① カードを書いたら専用のポストに投函
② 毎週火曜日に担当の人が各課のポストに投函する



《社内報の掲示》

- 社内報を壁に掲示する
→ 社内報の係の方に休憩室に持って行く際に壁に貼ってもらう



《写真の掲示》

- 運用のシステムについて**
- 写真は既存の掲示している写真に追加して掲示していく
 - 新入社員が4か月に1回作成
 - 入社2年目の人がフォロー役になる



◎ 結果の確認

方法： Googleフォームを用いたアンケート調査

質問内容： 工場見学の際、最後にお客様が通る場所が給設課休憩室ですが、写真や社内報の掲示により、外部の方々にとって良い印象を与えるような場所になったと思うか。




◎ 評価

改善活動前のアンケート調査と比較すると、「1」や「2」と回答する人がいなくなり、結果として平均点を**1.4点**上げる事ができた。

→ 「清潔感」に関する取組はできなかったものの、社員の皆さんの「お客様から見た休憩室はどうか」という意識の定着に貢献できたのではないだろうか。

◎ 今後の課題

- アンケート調査
質問3：お客様目線から他に休憩室にあつたらいいと思うものについて、何かあれば書いてください。
- ウェルカムボードのような、見学来てくれてありがとうのボード
- 給設課で作っている製品を部別で掲示する

企業または自治体名	鹿児島大学 キャリア形成支援センター	
業種	教育	
事業概要	全学キャリア教育プログラムの企画・開発～実施、全学キャリア・就職支援イベントの企画・実施、インターンシップの企画・実施、キャリア・進路相談など	

【プログラム情報】

課題名	キャリア形成記録帳構築のためのコンテンツ提案と インターンシップページの情報収集			
課題の説明 (100字程度)	キャリア形成支援センターでは「夢をカタチに。」をモットーとして、学生のみなさんの多様なキャリア形成をサポートしています。本課題では、学修支援システム manaba を利用した「キャリア形成記録帳」のコンテンツの提案とともに、全国の大学 HP におけるインターンシップ情報収集をしていただきます。			
対象学年	■学年・全学部 □指定あり（具体的な指定：）			
応募要件	■なし □あり（具体的な能力：）			
養成される主な能力	□自己分析力 ■自己管理能力 ■情報収集力 □多元的・多角的分析力 □客観的判断力 ■企画力 □実行力 ■コミュニケーション力 □対人調整力 □プレゼン力 □職場適応力			
インターンシップの概要	日目	日程	午前	午後
	1	9/3	センター長の講話、センターの概要説明、課題確認	全国の大学 HP におけるインターンシップ情報収集について1
	2	9/4 【非対面】	外部講師等による manaba やキャリア形成記録帳の概要説明 ① 先行事例紹介や調査について	
	3	9/7	② 当センター職員による学生相談の現状と課題	① ②に関するレポートまとめ
	4	9/9 【非対面】	レポート発表	調査（質的・量的調査）の計画について
	5	9/11	調査計画の検討	調査計画の発表
	6	9/15	調査の実施	
	7	9/25	調査結果まとめ作業	全国の大学 HP におけるインターンシップ情報収集について2
	8	9/29	調査結果発表	企画書の作成についての説明
	9	10/6 【非対面】	企画書案の中間発表	全国の大学 HP におけるインターンシップ情報収集について3
10	10/15	最終企画書の発表、関係者からの講評	振り返り、意見交換、紹介冊子の報告、修了式	
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・本インターンシップは基本的に非対面（ライブや動画配信など）実施を予定しています。 ・学内での使用に限り、ノート PC の貸与あり（要相談）。 ・当センター教職員をはじめ、学内外の様々な関係者と対話する機会があります。 			

インターン概要

- 研修先：鹿児島大学 キャリア形成支援センター
- スケジュール：9月3日～10月15日（10日間）
- 内容：キャリアデザインの意義、センターの役割、学生相談の現状と課題、ポートフォリオの現状、キャリア形成記録帳の準備状況・想定される機能の紹介、ジョブカードの作成、企業訪問、中間発表、manaバナビ紹介、アンケートの実施、意見交換会、最終発表

manaba の機能

1. 課題管理・情報発信機能により授業の学びの支援をする
2. レポートなどが自動的に蓄積され一覧で表示される（ポートフォリオ機能）

●現状・課題

蓄積された多くのレポートをどのように振り返りながらキャリア形成記録帳を作成するか分かりにくい。

→活用されず、学習成果物が蓄積されているだけの状態

参考事例

参考事例

ミネソタ州立大学



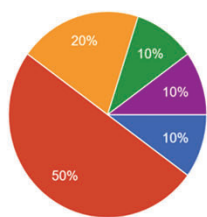
「Honors Program」～学生向けポートフォリオ～
学生が大学生活の中での学習、研究、活動などを自己のポートフォリオページで公開。 (<https://www.mnsu.edu/honors/portfolios.html>)

<魅力的な点>

- ・自己の経験を記録として残せる
- ・過去の振り返りが可能
- ・自分について他者に知ってもらえる
- ・自分でページ作成→オリジナリティがある

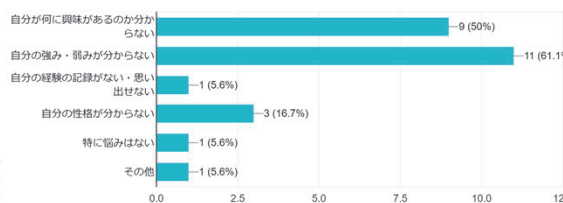
アンケート

- ①自己の経験・体験（アルバイト・部活・旅行等）の記録をしていますか。
はい10名（55.6%） いいえ8名（44.4%）



- 日記帳
- 手帳
- スマホアプリ
- パソコン
- パソコンなのですが、とくにパソコンのgoogleカレンダーを使って日々の行動を記録しています。気づきなどは本当は書いた方がいいのかもしれませんが、そこまで書いていません。

- ②自己分析で悩んでいることは何ですか。



(1)記録をつけることに抵抗を感じる人が一定数いる。(2)記録が自己分析を行う際に役立つことを知らないのではないか。(3)ポートフォリオを見れば自分の興味や強み・弱みが分かるようなコンテンツにすれば、就職活動の際に役立つのではないか。

ヒアリング調査

- ・継続して記録するための工夫→ゲーム要素、ログインボーナス、スタンプ
- ・他者との共有→各自の就活等の状況確認、質問箱
- ・スマートフォンで操作可能
- ・コンテンツの活用術の紹介

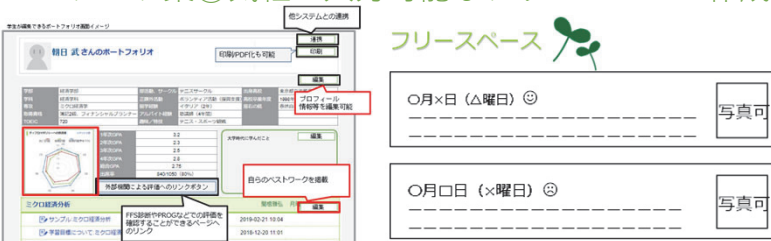
楽しさ、手軽さ、使いやすさなどモチベーションを高める工夫が必要

課題解決策の提案

コンテンツ案①プロフィール情報の項目・機能追加

- (1)プロフィール情報の項目に「長所・短所」「ストレス解消法」「他者評価」を追加。
- (2)各項目のエピソードを入力可能にする。

コンテンツ案②気軽に入力可能なフリースペース作成



コンテンツ提案③manabaの畑

- 自己の成長を植物の成長に見立て自己の成長を可視化
- (1)目標設定方法、達成へのプロセスを学ぶ。
 - (2)manabaの畑に目標を入力する。
 - (3)野菜の成長過程を公開する。



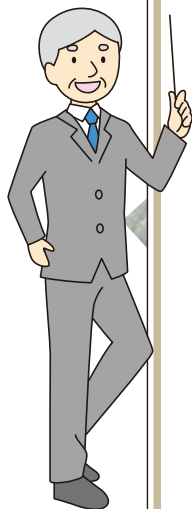
コンテンツ提案①～③はポイント制

まとめ

自分のキャリアについても考えながらインターンシップを行うことができた。いろんな職業・立場の方と意見交換を行い、自分になかった考え・価値観を学ぶとともに、自分のこれからの可能性の広がりを感じた。

「地域人材育成プラットフォーム」の全体像

解説
しますよ。



鹿児島大学には、全学的な教育を実施する総合教育機構と9つの学部があり、非常に多様な「知」を備えています。自分自身の関心や希望に応じて他学部等の授業も積極的に受講することで、身に付けた専門的知識をより高いレベルで活かすことができるでしょう。そのための仕組みが「地域人材育成プラットフォーム」です。

この「地域人材育成プラットフォーム」には3つのプログラムがあります。

かごしまキャリア教育プログラム

かごしま地域リサーチ・プログラム

かごしまグローバル教育プログラム

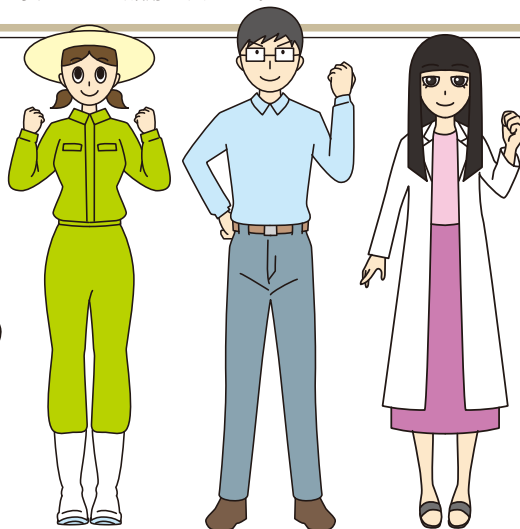
それぞれのプログラムは、【基礎】篇（計8単位）と【実践】篇（計8単位）に分けられます。

【基礎】篇は、全学必修科目である「大学と地域」（2単位）を土台とし、プログラム・スタートアップ科目（2単位）、地域志向科目（2単位分を選択）、「プログラム・コア科目」（2単位）から成ります。

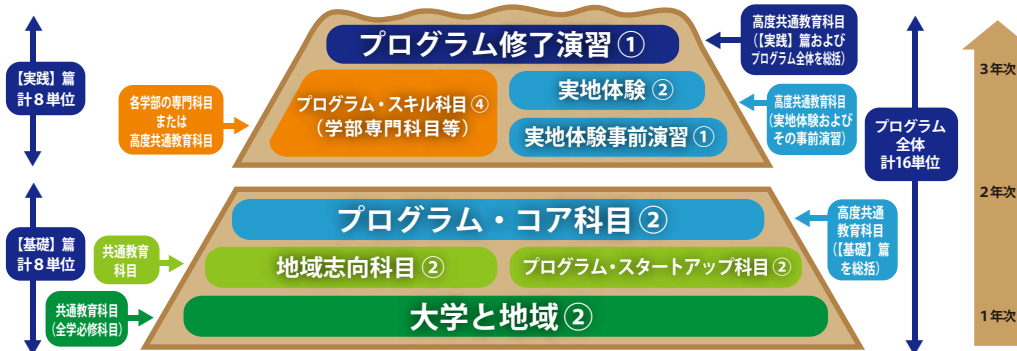
【実践】篇は、【基礎】篇よりも実践に重きを置き、プログラム・スキル科目（4単位分を選択）、実地体験事前演習（1単位）、実地体験（2単位）、プログラム修了演習（1単位）で構成されます。

【基礎】篇を修了すれば各プログラム【基礎】篇の「修了証明書」が、【実践】篇まで修了すれば各プログラムの完全な「修了証明書」が交付されます。また、いずれの場合も、皆さんがどのような学習を経験し、どのような能力を身に付けたかを詳細に示す「学修履歴書」も発行されます。

【基礎】篇は2年生で、【実践】篇は3年生で修了できます。これらの書類は、皆さんの進路選択や就職活動において、自分の能力を示すものとして活用してください。



私たちも
頑張ってみよう!



○内の数字は単位数を表しています。各プログラム専用の科目、共通教育科目、学部が提供する専門科目から構成されています。webサイトも参照してください。 <https://www.kagoshima-u.ac.jp/platform/> なお全てではありませんが、地域人材育成プラットフォームで修得した単位は、各学部の卒業要件単位に参入されます。

【基礎】篇

「大学と地域」（2単位）

1年次前期の全学必修科目です。鹿児島島の「今」を生きた教材としつつ、大学で学ぶための論理的な思考力や課題発見能力を身に付けます。

「プログラム・スタートアップ科目」（2単位）

各プログラムでの学び方を考え、基礎的な力を涵養する共通教育科目です。これから自分がどのような学びを経験するのか、どのような能力を体得するのか、他の皆さんと議論しながら整理しましょう。

「地域志向科目」（科目リストから2単位分を選択）

共通教育科目のうち特に地域との関連が強い科目です。鹿児島や南九州地域の自然や社会、環境や文化についての理解を深めることができます。

「プログラム・コア科目」（2単位）

各プログラムの中核となる高度共通教育科目であり、【基礎】篇の締めくくりともなります。座学を中心としますが、実際に地域に出て活動することもあります。

【実践】篇

「プログラム・スキル科目」（科目リストから4単位分を選択）

各プログラムが育成する技能に大きく関わる科目であり、各学部の専門科目または高度共通教育科目で構成されます。自分の興味や希望に応じて学部を横断して学びましょう。

「実地体験事前演習」（1単位）

「実地体験事前演習」は高度共通教育科目として開講されるもので、インターンシップや実地体験の成果を高めるための予行演習の場です。実際に何かの問題がある状況を設定し、その解決に取り組むことを通じて能力向上を図ります。

「実地体験」（2単位）

「実地体験」は高度共通教育科目として開講されるもので、これまでに学んできたことを実際に活かす場です。職業体験をしたり、海外に行き文化的背景の異なる人々と交流したりすることを通じて思考力やコミュニケーション力を高めていきましょう。

「プログラム修了演習」（1単位）

「プログラム修了演習」は高度共通教育科目として開講されるものでプログラムの総まとめをするための科目です。これまで学んできたことを振り返り、自分の強みや関心に対する自己理解を深め、これからの学生生活や就職活動に対する意識を高めると同時に、具体的な行動目標を設定します。

地域人材育成プラットフォーム【かごしまキャリア教育プログラム】とは

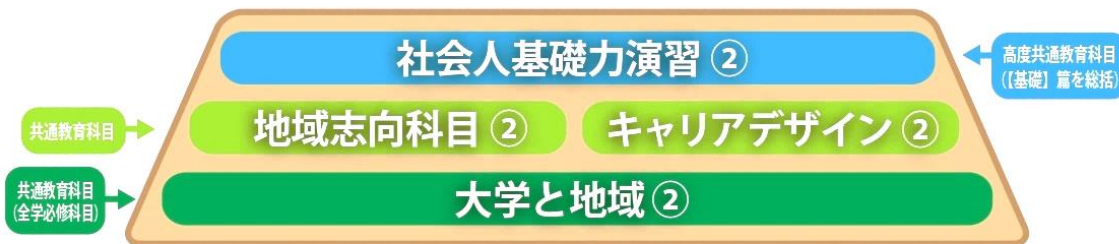
「かごしまキャリア教育プログラム」は、地域での就業を視野に入れる学生に対し、自治体や地元企業との連携に基づいたカリキュラムを通じて、具体的な地域課題の解決に取り組むことのできる能力の育成を目指します。

この教育プログラムで育成する能力は以下の通りです。

- ① 地域で活躍し地域のために貢献する意欲と能力
- ② 地域が有する潜在的な可能性や魅力について多角的に分析・評価し、その社会的価値を理解する能力
- ③ 企画立案・課題解決力を有し、組織の活性化及び地域の活性化に貢献する能力

【基礎】篇

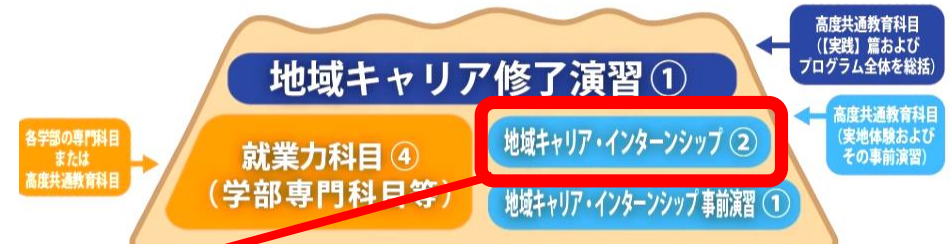
【基礎】篇では、全学必修科目である「大学と地域」（1年次前期）での学びを踏まえ、まずプログラム・スタートアップ科目である「キャリアデザイン」（1年次前期または後期）で自らのキャリア観を鍛えます。その上で、地域志向科目（主として1年次）で地域について学び、さらにプログラム・コア科目である「社会人基礎力演習」（2年次後期）において、地域でキャリアを築く基礎力を身に付けます。



「かごしまキャリア教育プログラム」カリキュラム図【基礎】篇

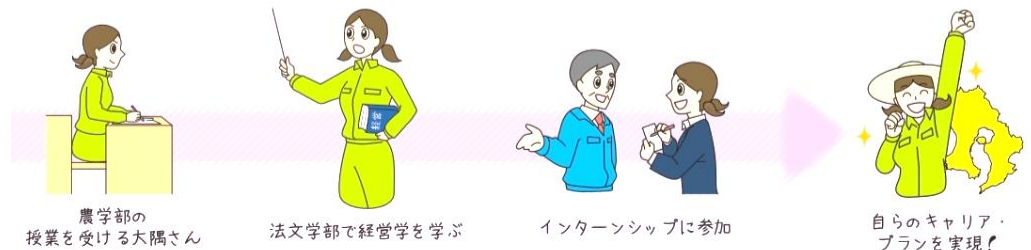
【実践】篇

【実践】篇では、【基礎】篇で身に付けた知識や能力を基盤としつつ、実践を重視した学びへステップアップします。その中心は「地域キャリア・インターンシップ事前演習」（3年次前期）と、地元の企業等で行う「地域キャリア・インターンシップ」（3年次前期）であり、実際に職業の現場において実践力を磨きます。さらに、プログラム・スキル科目である就業力科目（主として2～3年次）で、キャリア形成に必要な様々な能力を涵養します。そして、「地域キャリア修了演習」（3年次後期）でこれまでの学びを総括し、プログラム全体を修了します。



「かごしまキャリア教育プログラム」カリキュラム図【実践】篇

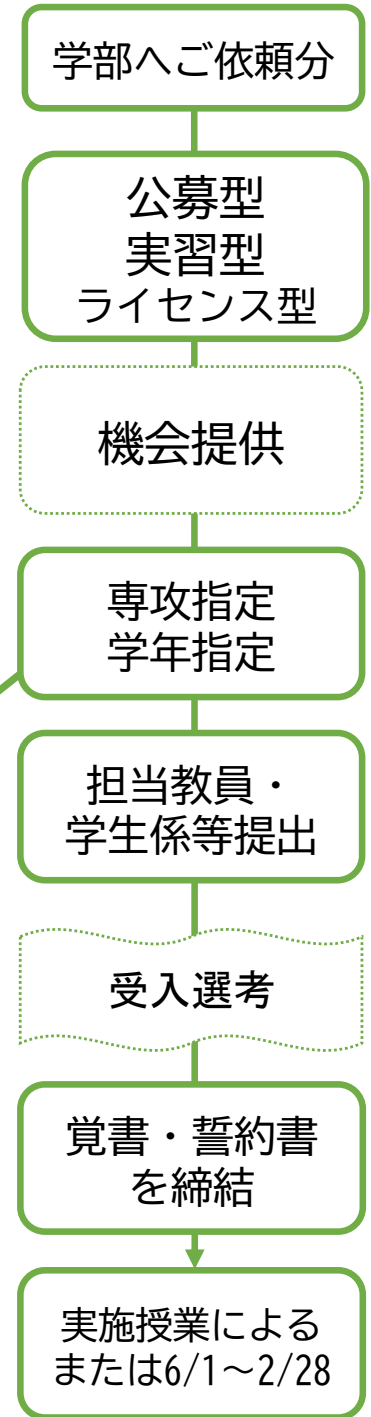
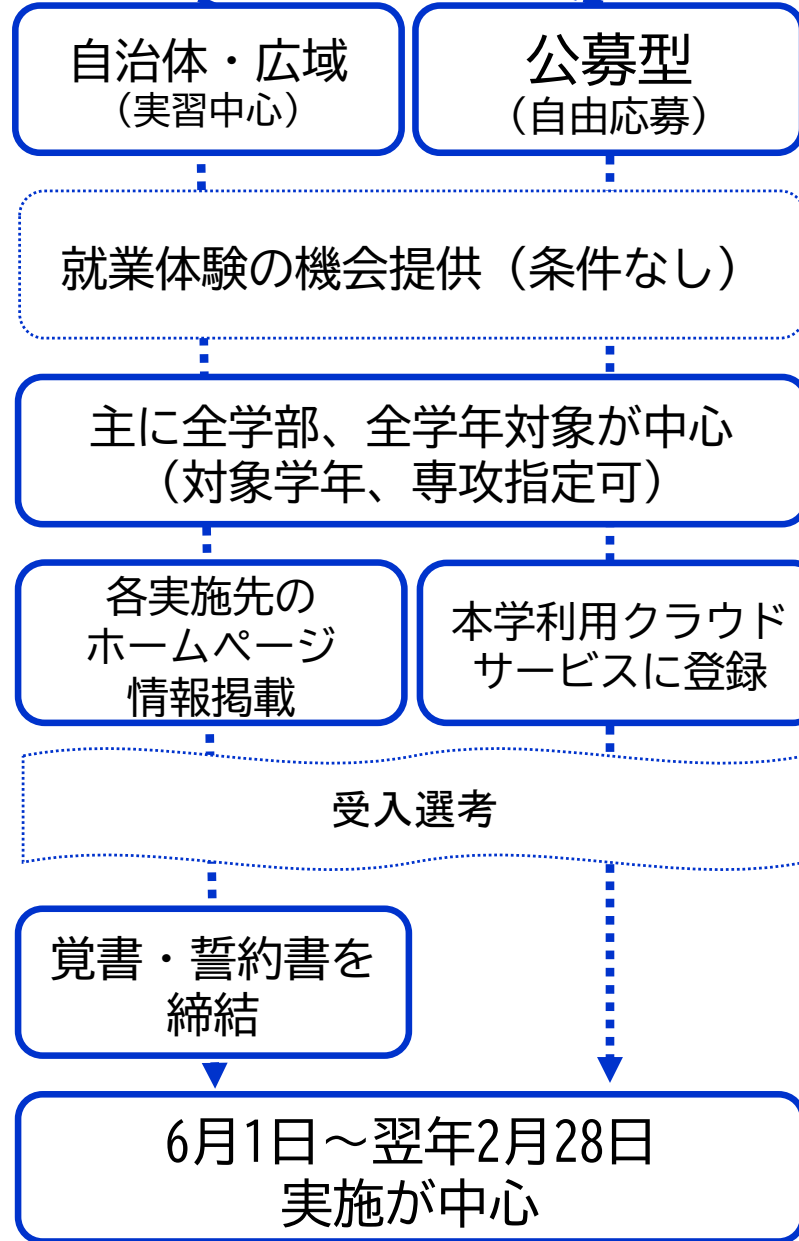
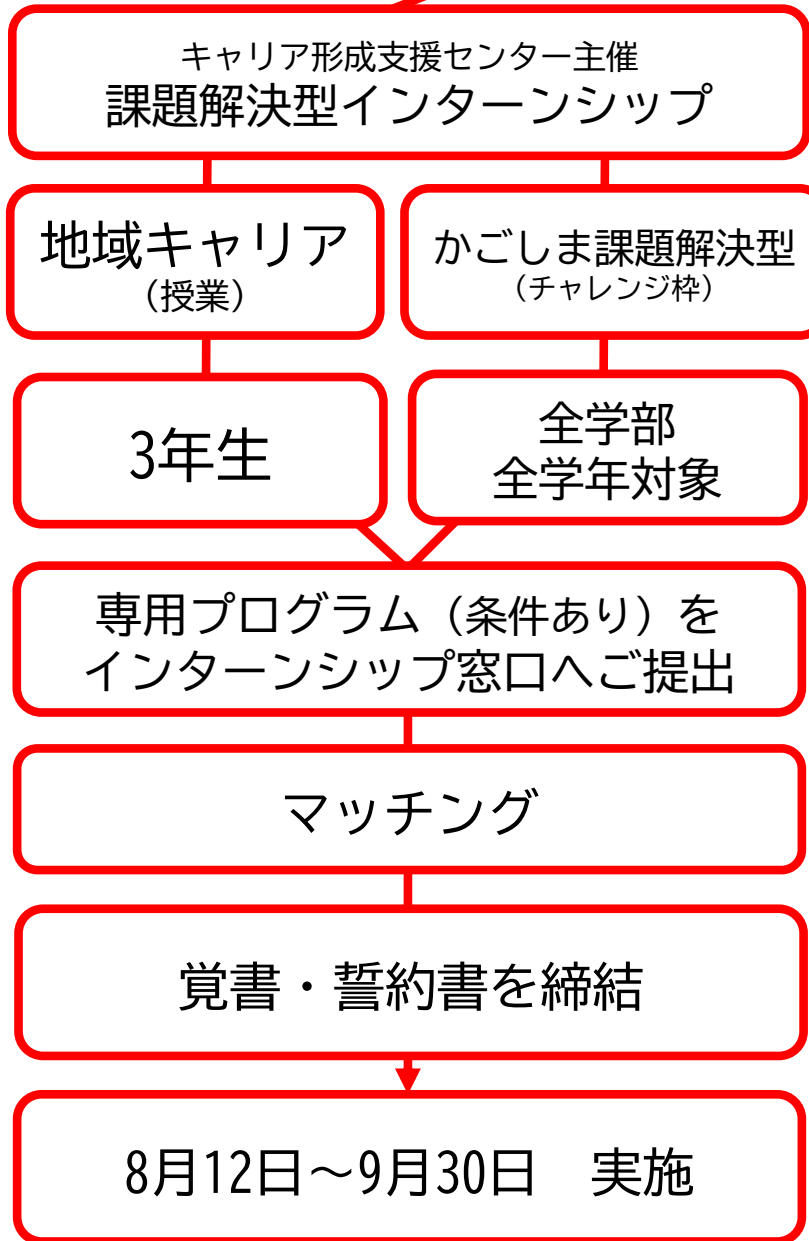
地域キャリア・インターンシップは本プログラムの実践篇に位置付けられます。
かごしま課題解決インターンシップとは、本プログラム以外の学生にも自己成長の機会提供のため「チャレンジ枠」として開放しています。
※チャレンジ枠の学生は、カリキュラム外となります。



鹿児島商工会議所会員企業の中には、地域人材育成プラットフォームの教育プログラムのうち「かごしまキャリア教育プログラム」の所定の単位を取得し、【実践】まで修了した学生には、採用選考の過程で優遇措置を行う企業・団体があります（令和3年1月27日現在で22社）

地域人材育成プラットフォームに関するお問合せ先
鹿児島大学 総合教育機構 TEL: 099-285-8826

インターンシップご依頼の流れ (インターンシップ窓口取り扱い分)



セミナー終了後の流れ

アンケート

- 終了後、アンケートご回答
(フォームに入力 2月26日まで)



資料配布

- 大学より3月1日頃、
プログラム作成様式、手引き等送信

参画
本申込

- 課題名、身に付く力のご提示
(フォームに入力 4月2日まで)



提出

- プログラム概要など必要書類のご提出
(最終原稿締切日 4月15日まで)